

第12回スクールミーティングにおける意見交換内容について

- 1 日 時 平成27年11月2日(月) 16時30分から18時00分まで
- 2 会 場 熊本市立井芹中学校 2F 東ホール
- 3 参加者 教育委員会 5名(崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、岡教育長)  
教 職 員 14名(井芹中6名、池田小4名、花園小4名)  
その他教育委員会事務局
- 4 意見交換のテーマ
  - ① 豊かな人間性の育成について
  - ② 学校・家庭・地域社会の連携の推進について
  - ③ その他
- 5 主な意見交換内容について

(◆: 質問 ○: 意見 ▼: 要望)

テーマ	項目	教職員	教育委員会
①	教員の負担軽減について	<p>○子どもたちの豊かな人間性の育成のためには教員の心の余裕が必要と思う。教員は忙しく月に100時間残業することもある。学校のチームの一員として事務職員が学年費などのとりまとめができないかという提案も学校内で行った。ただ、校務分掌の関係から、従来どおり教員が行うこととなった。</p> <p>▼教員の負担を軽減するため、市全体で事務職員も含めた取り組みを進めることが必要ではないか。</p> <p>○以前勤務していた学校では各担任や各学年で行っていた支払業務を事務室に一本化したところ、非常に助かった。</p> <p>○学校全体の予算執行については、事務室で行うが、学年費、例えば修学旅行や見学旅行などの支払いは教員が行っている。学校事務職員も遅くまで残業があり、今以上の業務をお願いできない事情もある。</p> <p>○給食費の督促は事務室で行っている。教材費は学年主任が処理している。担任が徴収業務を行うことにより、支払いが遅れた家庭の経済状況を、担任が把握できる利点もある。事務職員と担任が連携していく必要がある。</p>	<p>◆教員の責任の強さ故に任せられないという部分があるのかもしれない。教員の補佐をできる人材の配置を常に検討しているが、なかなか予算が厳しい。教員の仕事の範囲はどこまでなのかということがよく議論になる。教員が子どもと向き合う時間を拡充させるためにはどのようにしたらいいだろうか。</p> <p>◆支払い等は事務室で行っていると思っていた。教員が行うのか。</p> <p>◆給食費の滞納の督促は誰が行っているのか。</p>

テーマ	項目	教職員	教育委員会
	学校を取り巻く課題への対応について	<p>▼スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置はたいへん助かっている。専門機関につないだり、保護者への適切な助言をいただいたりしている。ただ多くの案件を抱えておられるので、SSWの増員が必要と考える。</p> <p>○担任に関わるべきであるが、限界がある。担任が言いづらいことなどはSSWからアドバイスをいただくと助かる。</p> <p>○他の子どもたちや授業には支障が出ないよう、教頭などにバックアップしてもらうなど工夫している。昨年度に勤務していた別の学校では、SSWなどたくさんの方に関わっていただいて、対応できたので助かった。子どもとのつながりを切ることは決してできない。</p> <p>○教員はどこまで関わるかどうかの線を引きようとは思えない。自分は養護教諭として学校がチームで動くことができるよう、また、教員や専門機関、家庭をつなぐためのコーディネートなど役割を分担して対応できるよう心がけている。いつも誰かが関わるような体制となるよう努めている。</p> <p>▼家庭の環境が大きく影響している場合も多いことから、SSWの増員は必要である。また、養護教諭の複数配置も望まれる。</p>	<p>◆学校現場でどのような人材が今求められているのか。</p> <p>◆例えば不登校の子どもへの対応など、教員がどこまで関わればいいのか。どのようにお考えか。</p> <p>○対応が教員だけでは厳しい場合は、専門家と連携して対応していくことが必要である。</p> <p>◆課題のある子どもへどこまで関わるのか、教員が線を引けるような基準はあるのか。</p> <p>○限られた予算の中で何が一番効果的な対策なのか考えたい。</p>
	日記指導について	<p>○子どもたちに毎日家庭で日記を書いてもらう。学校や家庭の状況を読み解けたらいいなあということで取り組んでいる。また、日頃から友だちの良さを言い合う活動を通して、人間性を高めていくよう努めている。</p>	<p>◆日記指導はどのように行っているのか。</p>

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		<p>○休み時間や朝少し早く出勤するようにして時間を作っている。日記はその日のうちに子どもに返すようにしている。日記の内容について子どもに声かけや会話をするなど、心がけている。</p>	<p>◆日記確認により、教員の時間がだいぶ割かれると思う。どのような工夫をしているのか。</p>
	<p>道徳の授業について</p>	<p>○道徳の授業の様子や子どもたちが考えたことを保護者に伝えている。学校で使用した道徳の授業の教材へ保護者のコメントを書いている。</p> <p>道徳の授業の内容を家庭へ伝えることで、家庭と連携した道徳の指導ができると思う。</p> <p>○3分の2程度の家庭からコメントがある。残りの3分の1の家庭からも確認の印はもらえる。</p> <p>○子どもが低学年のときから、家庭との関わりをしっかりとっておけば、家庭への意識付けにつながる。</p> <p>○特別支援学級の子どもたちの特性によっては、道徳の教材を自分に置き換えて考えることが難しいため、体験活動を重視している。例えば、畑での活動や校外に出て一般の人と触れ合うことで、実感として学ばせる活動を行っている。また、朝の時間にスピーチをさせている。自分の経験を話し、友だち同士で感想を発表させている。子どもたち同士も仲が良くなるなどの効果もある。</p> <p>○小学校1年生は自然にあいさつができる。あいさつ運動などで形から入ることも大切だが、教員と子どもたち、また子どもたち同士の信頼関係が大切だと感じる。そこには、家庭の力も重要である。家庭で大切にされ、あいさつが交わされていれば、学校や社会でも自然にできるようになると思う。</p>	<p>◆道徳の授業はどのように工夫しているのか。</p> <p>◆保護者からのコメントが返ってくる割合はどのくらいか。</p> <p>◆特別支援学級の道徳の授業はどのように行っているのか。</p> <p>◆子どもたちのあいさつの状況はどうか。</p>
②	<p>宿題や忘れ物の指導について</p>	<p>○子どもたちに忘れ物や宿題の指導をするが、根本に保護者や家庭に課題がある場合には、保護者には言いづらい部分がある。そのような場合の効果的な対応はとても難しいと感じている。</p>	<p>◆宿題や忘れ物などについて家庭との連携はどのように進めているのか。</p>

テーマ	項目	教職員	教育委員会
	家庭の教育力について	<p>○課題のある子どもへの対応は家庭の力が必要である。また、地域の力も必要である。ただし、学校中心に対応している傾向がある。学校のことであれば、専門家としての対応ができるが、福祉や医療については、適切な対応が難しい。教育と福祉の両方の知識のある専門家が教育の現場で必要になってくると思う。</p> <p>○保護者に食育モニターになってもらい、味噌作りをして、出来上がった味噌を給食で使ったり献立を立ててもらったりしている。状況を給食だよりでお知らせするなどして保護者への食育の啓発を図っている。</p>	<p>○家族の力が弱くなっていることを感じる。そこをケアしないと解決しないケースがある。教員だけの対応では困難であり、福祉との効果的な連携のあり方を考えていかななくてはならない。ひとり親家庭へのサポートも必要と考えている。</p> <p>◆家庭における食育の推進についてはいかがか。</p>
	表現活動について	<p>○子どもたちは生の芸術に触れる機会が少なく、芸術への感度が低い。先日、学校でプロの演奏に触れる機会があったが、子どもたちは、演奏に圧倒され、反応をすぐに示せないほど感動していた。今後、表現力が重要になっていくと思われ、質の高い芸術を体験させる必要性を感じた。</p> <p>子どもたちの地域での発表の機会を増やすなど、表現活動を行う場を充実させる必要がある。</p> <p>○1～2年の時間をかけて、準備をしていく必要がある。</p> <p>○文科省の事業を活用した。</p>	<p>◆表現活動の充実についてはいかがか。</p> <p>◆有意義な活動だと思う。学校全体で取り組んでいくことができるのか。</p> <p>◆予算措置はどのように対応したのか。</p> <p>◆市の事業としての予算措置はあるのか。</p> <p>○「来て来て先輩」「ホンモノにふれる」などの事業を通して取り組んでいる。大いに活用してほしい。(事務局)</p>

テーマ	項目	教職員	教育委員会
	地域人材の活用について	<p>○地域の歴史探訪などは、地域の人材に講師になってもらったり、地域の講座に子どもたちが参加したり、また学校に招待したりするなど、連携を深めている。非常に効果的な学習活動である。</p> <p>○課題のある子どもに関する情報を地域がもっている場合もあり、連携は大切だと感じている。</p>	<p>○地域の人材を呼び込むような連携は効果的ではないか。(事務局)</p>
③	SNSに関する課題への対応について	<p>◆SNSに関する課題について、教育委員会ではどのように取り組みを進めているのか。</p> <p>○生徒会を中心に実態を調査して、解決するためにどのようなことを行っていけばいいか、全クラスで話し合ってもらおう。そして、その意見を生徒議会においてさらに議論し、学校のルールを作ることとしている。</p> <p>○SNSに関する課題への対応は、学校から家庭への働きかけを行っているが、家庭での教育をさらに進めなければならないと思う。今後、情報端末がますます発達していくと思われ、簡単に子どもたちが所有していくことを心配している。</p> <p>○6年生が卒業を機に携帯電話を購入することが多いと聞いたので、昨年度は授業参観のときに保護者向けに話をした。それがきっかけで、家庭で購入について再度話したり、ルール作りを行ったりできたと思っている。保護者同士の情報交換にもつながるなど、効果的な取り組みができたと思っている。</p>	<p>◆教育委員会制度が変わり、市長主宰の総合教育会議が始まった。その中で、福祉や医療、家庭も含めた教育に関する課題について、議論している。今日の議題も含めて、他に質問や要望等はないか。</p> <p>○すぐに課題を解決できるような取り組みは非常に難しいと感じている。今、中学校で進めているような子どもたちが自らルールを作る取り組みは効果的だと思っている。井芹中学校での進捗はいかがか。</p> <p>○この問題はどれだけ規制しても解決するものではない。子どもたちにきちんと判断できる力をつけさせることや正しい知識をつけさせることが必要である。</p> <p>○子どもたちが学校で作ったルールは、家庭に持ち帰って実践することで、より効果的になると思う。</p>

(◆：質問 ○：意見 ▼：要望)

テーマ	項目	教職員	教育委員会
			<p>○教育委員会でも家庭への啓発を重点的に取り組みたいと考えている。そのため、今年度から情報モラルキャラバンという事業を、2年間かけて全学校で実施するが、学校、家庭、地域が一緒になって情報モラルなどの課題について考えていく内容であり、全国的にも先進的な取り組みである。</p> <p>また、本市では、江南ルールと言われるような子どもたちが自らルールを作る取り組みを行っているが、その中でも井芹中の取り組みはたいへん素晴らしい。また、池田小では、地域の人も一緒になって情報モラルについて考える活動を行っており、今後このような取り組みは全国的に注目されることと思っている。(事務局)</p>